

編集委員会委員

廣田良輔

HIROTA, Ryouzuke

鹿島建設株式会社専務取締役
(財)運輸政策研究機構特別研究員

「運輸政策研究」誌の編集委員はその方面の学術と行政の中堅幹部を主体として構成されている。その中で末席を汚している小生はやや異質な存在であると自認している。特別研究員としての運輸政策研究所の研究員の方々との交流やUITP誌日本語版編集のお手伝いをさせて頂いているという背景はあるものの、この分野には周辺で関わってきたいわゆる実務者であり、現在は民間企業にベースを置いている立場である。交通運輸の幅広い課題について様々な角度から分析し、提言する研究成果の提示を主たる目的としている本誌に寄せられる論文は多彩かつ高水準であり、自己の学識不足をたえず痛感している。そのような状況の中で、創刊以来本誌の編集査読活動に参加してきた経験の中から最近気付いたことに触れさせて頂きたい。

本誌に寄せられる論文(一般投稿論文や運政研スタッフの研

究成果など)は複数の査読者による査読結果をもとに編集委員会で掲載の可否を検討することとなるが、査読や審議の中で議論が交わされるものもある。そうでなくても編集委員の一人としては掲載された論文に対する読者の反応が気になる所である。本誌は研究、報告、論説とともに紙上討議のジャンルを設け、相互の意見交換の場を設けているが1998年以来8号までの刊行を重ねたにもかかわらず現在まで紙上討議にあたる投稿は皆無となっている。本誌を通して研究者、政策担当者、事業者、その他運輸に関心のある多くの方々の間で、活発かつ建設的な意見交換が展開されることも本誌の使命の一つであろう。紙上討議論文も加わり、一方通行だけではない誌面作りができることを願っている。本誌の更なるレベルアップのためにも、紙上討議論文を含む活発な投稿を期待している。

季刊「運輸政策研究」

日本交通学会論文賞の審査対象論文掲載誌に指定される

当機構が発行する本誌「運輸政策研究」が、この度、2000年4月15日に制定された「日本交通学会論文賞審査運営内規」附則1において、「学会賞選考委員会の定める研究雑誌」として、日本交通学会の論文賞審査対象論文掲載誌に指定されました。

これは、各位から寄せられた論文が関係方面に注目されているとともに、本誌が論文掲載に当たりレフリー制を導入するなど、その質の向上に努めていることが認められたことによるものと思われま。

今後ますます皆様方から交通運輸に関する有意義な論文が積極的に寄せられるものと、編集委員会一同、期待してお待ちしております。

日本交通学会論文賞審査運営内規(抄)

附則1 「学会賞選考委員会の定める研究雑誌」は、当面、日本交通学会『交通学研究』、運輸調査局『運輸と経済』、運輸政策研究機構『運輸政策研究』の三誌に限定する。

この号の目次へ <http://www.jterc.or.jp/kenkyusyo/product/tpsr/bn/no09.html>